



昨年の秋から、在外研究でイギリスのケンブリッジ大学にきています。イギリスは日本の北海道よりもずっと北に位置するため、冬の寒さを心配していましたが、近くを流れる暖流の影響もあり、寒さも思っていたほどではないようです。

一方、天気がとても変わりやすく雨が多いです。ケンブリッジは、大学を中心に歴史的な建築物が多く、静かで美しい町です。町の中心をケム川が流れ、緑あふれる公園が多いのが特徴です。

人口は11万人程度でそれほど大きい都市ではなく、市内での生活も自転車があれば十分なほどコンパクトにまとまっています。

駅もケンブリッジ駅ひとつしかなく、学生の移動手段は

主に自転車かバスといったところ です。

ケンブリッジ大学は31のカレッジから成る大学で、その中の一つである Kings College は観光客にも人気の場所です。

イギリスではほとんどの大学が9月に始まりますが、オックスフォードとケンブリッジは10月に始まります。ケンブリッジ大学の学期は3学期制で、Michael-mas, Lent, Easter と呼ばれる3学期からなっています。

現在はLent termで、このタームはちょうどウィリアム王子が学生としてケンブリッジ大学にきており、新聞などでも時々取り上げられています。



私のイギリス滞在記

横浜商科大学 商学部 経営情報学科 教授 浮田善文



私が所属している Wolfson College は町の中心部から南西に歩いて 15 分位のところにあり、緑が多いとても静かなキャンパスです。

Wolfson は海外からの留学生が多い College として知られており、国際交流のイベントも多く行われています。

また、私のような客員研究員は、Wolfson だけで現在約 30 名いますし、町でスーツケースを持った人を見かけることも多く大学全体で常時かなりの数の研究者が海外から来ていていると思います。

クリスマスの時期には、Wolfson の Formal Hall にとても立派なクリスマスツリーが飾られ、また、クリスマスパーティー等のイベントも行われました。普段、この Formal Hall では、ディナーをとることもできるのですが、その際学生も教員もガウン着用が義務付けられています。

こちらでの研究活動ですが、セミナーやワークショップに参加しながら、自分の研究を進めています。

今週は一週間、ニュートン数理科学研究所のワークショップに参加していました。この研究所では、数理科学に関する特定のテーマに関し、国内外の専門家を中心とした短期集中のプログラムを行っています。

世界中から著名な研究者がケンブリッジに集まりますので、直接話を聞くことができることはとても刺激になります。

私自身、初めて海外に行ったのは大学を卒業してからですし、最近まで、旅行で海外の大学に行ってみるというのは考えたこともありませんでした。

今になって 大学時代にもっと海外に行って、いろいろなことを経験しておけばよかったなと思っています。それは、同年代の海外の学生とコミュニケーションをとることで、文化や考え方の違いを学び、多くの刺激を受けることができるためです。

今在学中の大学生やこれから大学生になる人の中には「英語ができるようになってから海外に行こう」と思っている人がいるかもしれません。

でも、これはもったいなくて、まず海外に行って「英語ができれば海外の友達ともっと交流ができて楽しい」ことを知ってもらえればと思います。

私自身、今でも英語は苦手ですが、英語ができればもっと楽しく海外の友人とコミュニケーションがとれるのは分かっていますので、もっとできるようになりたいと思っています。

「英語は全くできない」という人こそ是非、留学等にチャレンジしてほしいと思っています。(浮田善文)

